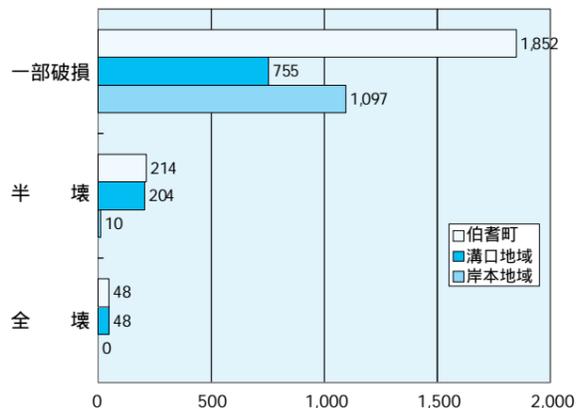


鳥取西部地震による町内の家屋被害（棟）



鳥取西部地震で被災した旧溝口町役場（平成12年）



被災者をソパで元気づける鳥取そばネットワーク

傾斜地や、建築後長期間経過した家屋が多く高齢者が3割を超えている中山間地域では、屋根土に瓦葺、土壁、布石基礎、筋交いのない農家住宅が多く被害が大きかった。



ラジオや懐中電灯、救急医薬品、非常食料など非常持出品の準備は万全ですか。日ごろから点検・準備が大切です。

と良いでしょう。所、役割分担などを決めておく

また、いざという時に家族が慌てず行動できるように、普段から家庭で防災について話し合

災害に備えて 普段から点検を

普段から家庭で家屋を点検し、「土台、柱や屋根瓦などが傷んでいないか」「家具や電気製品が転倒しないよう固定されているか」など危険箇所を確認して補修したり、安全に避難できるように出入口や通路には物を置かないようにしましょう。



鳥取西部地震による落石で軽乗用車が大破（中祖地内）



鳥取西部地震により道路路面が崩壊（大倉地内の農道）

忘れないで！ 防災のこころ

薄れる防災意識

鳥取県西部を震源としたマグニチュード七・三、県内で、負傷者百四十一名、住家全壊三百九十四棟、住家半壊二千四百九十四棟と大きな被害をもたらした鳥取県西部地震から八年が経とうとしています。

大きな地震などの災害が起きるたびに、住民の危機意識は高まり、万が一の備えをする人も増えますが、いつ、どこで起きるかわからない災害に対して危機感を持ち続けることは難しいものです。

だからこそ「まさか」「想定外」と後悔しないよう、最悪の事態を想定した覚悟と今できる備えをもう一度考え、点検する必要があります。



二部公民館女性学級の防災講習会の様子（今年6月、二部公民館）

